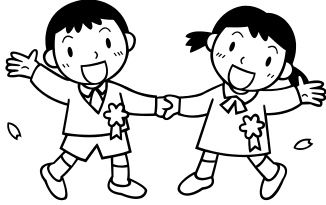


\*\*\*\*\*

令和2年



# ひやき

# 4月

さいたま市立 大宮北小学校 学校だより

\*\*\*\*\*

## 日常に戻れる日を願って

校長 渡辺 明

春爛漫、例年より暖かい春に桜の花も早々と咲き、新年度が始まりました。

私は久松丈記校長の後任として着任いたしました渡辺明(わたなべ あきら)と申します。よろしくお願ひいたします。

本来であれば新しいスタートにあたって、私なりの様々な思いをお伝えしたいところですが、この春に限っては、なかなかそういう気分ではられません。3月2日に始まった、新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休校は、この始業式・入学式をはさんで、5月6日まで継続されます。これからの15日間は今までに例のない「分散登校」という形で登校日を設け、クラスが勢ぞろいするのは、今しばらく先のこととなります。

子どもたちにとって学校が大切な場所であるように、私たち教職員にとっても子どもたちと一緒に頑張る日々はかけがえのないものです。その日常が早くもどってくることを、今は願ってやみません。

この分散登校中も学校で出来ることを考え、少人数での授業を通して、子どもたち一人ひとりと(「三密」に配慮しつつ)充実したかわりがもてるという意識で指導にあたりたいと思います。

今は世界中が命と健康の大切さを守るために動いています。そんな状況からも子どもたちが感じ取れること、考えてほしいことはたくさんあります。最後に、今回の状況を前向きにとらえて発信された、作家のあさのあつこ氏のメッセージの一部を紹介します。

日本中の多くの学校が、突然お休みになりました。卒業や学年が上がる直前の3月に、自分でちゃんとお別れができず、友達と急に断ち切られてしまった人もいるでしょう。学校で勉強するはずだった多くの時間も奪われてしまいました。

当たり前が続くと思っていた日常が突然くると変わる、あるいは消えてしまう。このことを、みなさんにはじっくり考えてほしいのです。それも個人の事情じゃなく、国や社会の事情で変わってしまうことがあるんだ、ということ。

だからこそわたしは、みなさんが主体的にこの時期を生きてほしいと思います。自分が何をしたいか、何をすべきで、何をしたらいけないのか。大人たちの言うことを全部うのみにするのではなく、自分で考えて動いてください。

「別れちゃう友達がいるから、どうしても会いたい」と感じるなら、会いに行ってもいい。その場合は、手洗いをちゃんとしようとか、少しせきが出ているから今日はやめようとか、考えてみましょう。そして自分が動ける範囲で動く、ということをやってみてください。

いま世の中にはいやな空気があふれています。トイレットペーパーを買い込んだり、マスクをせずに街を歩く人を「非常識だ」と言ってみたり、デマや不正確な病気の情報に右往左往したり。これはウイルスのせいだと思いますか？

実はわたしには、今まで見えづらかった弱点や短所が、はっきり表れてしまっただけに思われます。「わたしとあなたはちがう」「ちがうから敵だ」「ちがうから許さない」。そう言って相手を攻撃して安心するのは、大人の社会だけでしょうか。学校ではなかったでしょうか。しかしそんな言葉は、今のような状況を悪くしても、良くすることはありません。

でも、もしかするとこれはチャンスかもしれません。

大人は大きな出来事があると騒ぎ、過ぎればすぐ忘れてしまいます。でもみなさんには、一人ひとりの身に降りかかったことを覚えておいてほしい。

友達と会えない悲しみ、学校から解放された喜び、ドタバタする大人を見てうんざりした気持ち、医療現場などで必死に働く大人をすごいと思った気持ち。自分の言葉で友達や家族、大人たちに話してみてください。なぜならそれが、あなたたちが大人になった時、こんな騒動や危機を起こさない力になるからです。世の中を変える力になるからです。

